

強震動委員会は、1996年5月の発足以来、学会内外に向けて様々なアウトリーチ活動をおこなっています。

強震動講習会

2001年度より、「強震動予測—その基礎と応用」と題した講習会を会員・非会員を対象に毎年続けています。現在は日本地震工学会、日本活断層学会と共催しており、実習形式を試みるなど好評を博しています。(残念ながら、2020年度は、コロナウィルスのため開催はありません。次回は2021年度の冬頃になる予定です)

講習会の様子

講習会	最近のテーマ
16回	活断層を対象とした地震動予測の現状と断層近傍強震動の計算実習
17回	強震動予測手法と地盤構造のモデル化
18回	微動を利用した地下構造のモデル化
19回	地震動予測



会場：東工大 田町キャンパスイノベーションセンター
国際会議室

ニュースレターでの連載記事

「新・強震観測の最新情報」(2020年1月～)を連載しています。また、2017年1月～2019年3月に連載した「新・強震動地震学基礎講座」(全25回)は、下記HPでご覧になれます。さらに、この「新・強震動地震学基礎講座」を単行本として再編集し出版する予定です。

強震動研究会

年に1、2回のペースで、秋季大会または委員会開催に合わせて関連他分野から講師を招いて研究会を実施し、一般にも公開しています。2020年12月15日(火)には、第36回目となる研究会をオンラインで開催予定です。参加方法など詳しくは、下記の強震動委員会ホームページをご覧ください(11月中旬ごろから案内予定)。

最近の研究会のテーマ

回	日付	講演者	題目
31回	2017/10/24	小林哲夫	活火山とカルデラ火山—火山災害の実例と噴火予知・予測の現状—
32回	2018/03/05	武村雅之	復興百年誌：石碑が語る関東大震災
33回	2018/10/08	中村 晋	社会基盤施設的设计・設計地震動に関する動向と課題—ポスト2011年東北地方太平洋沖地震—
34回	2019/03/27	岩崎貴哉	北海道中軸部の地殻構造の影響と地震活動のテクトニクス背景
35回	2019/09/15	酒井 敏	研究、楽しいですか？
36回	2020/12/15	黒木英州	正確な震度観測を行うために(オンライン開催)(予定)

大会セッション企画など

強震動研究を中心とした関連研究分野における議論の充実を図るため、学会大会等における特別セッションを企画提案しました。日本地球惑星科学連合大会では、2015年「兵庫県南部地震から20年：活断層と強震動に関する研究の進展」、2016年「K-NET運用開始から20年：強震観測網のこれまでとこれから」、2017年「震源域近傍強震動の成因解明と強震動予測への展開」のセッションが設けられました。また、2018年12月には、第15回日本地震工学シンポジウムにて、セッション「長周期地震動から断層近傍パルスまで：予測と対策に向けて」が開催されました。

出版

ニュースレター(2017年1月～2019年3月)に連載された「新・強震動地震学基礎講座」を単行本として再編集し出版する予定です。また、委員会における活動の中から、「地震の揺れを科学する—みえてきた強震動の姿—」東京大学出版会(2006)が上梓されました。

ホームページの運営

委員会ホームページで最新情報から過去ログまでを配信しています。詳しくは強震動委員会ホームページへ。

URL <https://www.zisin.jp/kyosindo/kyosin.html>



QRコード 強震動委員会HP

